

第二章 日本橋を未来へ

徹底的な調査開始

開橋から約百年を経過した日本橋は、長い年月、車の交通や風雨にさらされてきたため、表面のでこぼこや側面の汚れ、石のひび割れなどの損傷がみられるようになっていました。また、耐震性^{たいしんせい}については、昔の基準で設計されているため、最新の基準に照らして安全性の検討を行う必要がありました。

そのため、2005（平成17）年12月から2008（平成20）年3月にかけて橋の専門家などが集まり、いろいろな観点から橋の状態を徹底的に調査し、損傷の原因究明や耐震性を評価^{ひょうか}しました。



▲表面のでこぼこ



▲側面の汚れ



▲石材表面の剥離（はがれ）



▲石材のひび割れ（裏面）



▲石灰分のしみ出し（裏面）